

## Si-R570 V34.01 変更内容一覧

### □機能追加・改善

No.	項目	1:追加内容
1	ISO15408認証取得	ISO15408の認証を取得しました。
2	証跡管理機能	1. RADIUSサーバまたは、装置内のローカルDBに登録した任意のユーザアカウントについて、権限クラス(管理者クラス/一般ユーザクラス)の設定を可能にしました。 2. RADIUSサーバに登録されたユーザ情報の認証プロトコルはPAP固定でしたが、CHAPも指定できるようにしました。 3. コマンド実行履歴をシスログメッセージに保存可能としました。 4. password admin set, password user set, aaa user passwordコマンドについて対話形式でのパスワード設定モードを追加しました。
3	ProxyDNS機能拡張	1. ProxyDNSIによるDNS問い合わせ転送時に、複数DNSサーバに対して問い合わせを転送可能としました。 2. PPP接続時に自動取得するDNSサーバのアドレスとして、セカンダリDNSサーバのアドレスも取得できるようにしました。
4	diagコマンドの改善	拡張カードおよびメモリ診断のためのdiagコマンドについて、不用意に入力して即再起動が発生するというケースを防止するために、コマンド実行時に確認メッセージを出すように改善しました。
5	ARP認証改善	1. ARP Replyに対して妨害フレームを送信すると、その妨害フレームに対してARP Replyを送信する端末がいるため、そのループを避けるためにARP Reply を無視するようにしました。 2. 認証保持時間内にARPを受信した場合の妨害フレームを複数回出すようにしました。 3. 1秒間に複数回送信元IPアドレスが変化した場合、IPアドレスが元に戻った場合には認証しないようにしました。

### □修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V21.02~	clear logging error コマンドが実行されると、装置内に記録されているFANや電源モジュール等の外的要因でハードエラーとなりうるハードエラーログが消去された後に、消去されたエラー監視が再開される。reset clear コマンドもclear logging error コマンドと同様の動作を実行することになっているが、ハードエラーログの消去後、不具合によりエラー監視が再開されない。
2	V34.00~	bgpのfilter設定が“lack of table”のエラーとなり、最大定義数まで設定できない場合がある。
3	V21.02~	pingおよびtracerouteの実行結果が、time表示が負の値になったり、また、round-trip表示に非常に大きい値が表示される場合がある。
4	V21.02~	ProxyDNS機能を有効にした状態で、telnetで装置へログインし操作中に装置がシステムダウンする場合がある。
5	V21.02~	FTPクライアントと接続後、未サポートコマンドを受け付けると、次に受け付けたコマンドが必ず失敗する。
6	V34.00~	RSAデジタル証明認証方式で、証明書の有効期限切れの拒否を有効にした際に、有効期限切れの証明書を使用してもIPsec/IKE通信が実施できる場合がある。
7	V21.02~	コンソールあるいはsshでログインし、コンソールからキー入力を伴うコマンド(telnet)を実行するとシステムダウンする場合がある。
8	V32.00~	多数の異なる宛先に対する自発パケットが短時間に集中して発生し、かつ自発パケットと同じ宛先へのパケットの受信および転送動作が競合すると、装置のシステムダウンまたはシステムハングが発生する場合がある。
9	V21.02~	IKE Informational交換において、削除メッセージとINITIAL-CONTACTメッセージのHASH値チェックを行っていないため、不正なメッセージを処理する場合がある。処理された場合、IPsec SAやIKE SAが削除される。
10	V21.02~	IKEネゴシエーションPhase1において、AES鍵長が128bit,192bit,256bit以外でIKE SAを作成してしまう場合がある。
11	V33.00~	updateinfoコマンドのパスワードは、装置規約上最大32文字までとしているが、最大64文字まで設定できてしまう。
12	V21.02~	マルチNATの動的NATを用いたTCPやUDP通信を行う環境において、複数のプライベート側ホストが自側ポート番号に同一ウェルノウンポート番号を使用し、かつ、これら複数のプライベート側ホストが、同一のグローバル側IPアドレス、ポート番号の相手と通信を行うと、メモリ不足に伴うシステムダウンが発生することがある。
13	V34.00~	ftpあるいはsftpでログイン後15分無操作状態が続くと自動ログアウトするが、その際のシスログに自動ログアウトを示す“(autologout)”が表示されない。
14	V21.02~	SNTPサーバ機能を有効にした状態で運用中に、要求メッセージ以外のSNTPメッセージを受信すると、不要な応答メッセージを送信してしまう。
15	V21.02~	基本NATで使用するテーブルがタイムアウトした時に一度目のFTP制御セッションもしくはIRC DCCIに対応するTCPパケットがロストする。二度目以降は正常に通過する。
16	V34.00~	タイムアウトしたNAT変換テーブルが17個以上動的テーブルキューに接続されている場合、NAT変換テーブル取得時にタイムアウトしたテーブルと同じプライベートアドレス、プライベートポート番号、相手IPアドレス、相手ポート番号、プロトコルのNAT変換テーブルを動的テーブルのキューに接続する時にメモリ解放もれが発生する。
17	V21.02~	ProxyDNS機能を有効にした運用環境において、“remote ap ip dns”で設定した接続先(remote)へDNSクエリが転送されない場合がある。またその応答を受信すると、システムダウンする場合がある。
18	V21.02~	remote ap ip dns定義のDNSサーバアドレスに255.255.255.255を設定し、接続相手からのConfigure-RequestにPrimary-DNS-Server-Address optionが含まれた場合、このオプションへConfigure-Reject応答が返らず、誤ってConfigure-NAK応答が返る。
19	V33.00~	ssh/sftpの接続を繰り返していると接続応答がなくなり、ssh/sftpでログインできなくなる場合がある。なお、本事象はコンソール操作には影響ない。
20	V34.00~	ログイン時のパスワード入力で、パスワードの最後に余計な空白文字を入力するとシステム動作がおかしくなったりシステムダウンすることがある。
21	V21.02~	装置の再起動とネットワーク監視装置からのVRRP関連MIBのポーリング動作が競合すると、タイミングによってエラーログが記録されることがある。
22	V34.00~	ログインユーザ認証にRADIUSサーバを使用して装置へログイン/ログアウトを大量に繰り返すと、ハングアップすることがある。